

# うたごえ新聞

12/17  
(1990年)  
NO. 1332

THE SINGING  
VOICE OF JAPAN

日本のうたごえ全国協議会機関紙  
うたごえ新聞社  
〒169 東京都新宿区大久保2-16-36  
☎ 03(209)0638 FAX 03(200)0105  
振替口座 東京2-5631 毎週月曜日発行  
1部120円・税4円(〒26円)・月480円・税15円(〒120円)



## ぼくらの羽は ときをははたく

ウタゴエの祭典

### 特集

※1面～8面

岡山市から北東へ四〇キロ  
海抜三二〇メートル、岡山県  
久米郡棚原町飯岡。ここに直  
のべ一万人が参加

月の輪古墳発掘運動をテーマにした合唱組曲  
月の輪からのメッセージ 公演を通して、合唱発表会に参加

### 月の輪少年少女合唱団・月の輪合唱団 (岡山)

ほんとの歴史  
ぼくらの手で

この運動をうたった合唱組曲「月の輪からのメッセージ」ができてから三年余。今年には百二十名の大編成で日本のうたごえ祭典の合唱発表会に参加した「月の輪」合唱団と「月の輪」少年少女合唱団の仲間たち。

「この歌をうたうなかで、

変わっていく  
子どもたち

「ア村のひとみんな、母さんたちも揃った、働く人も学生も、みんなさきどり求めた、真実の歴史を」と、岡山市や津山市から、人々は千五百年の古代に向けて発掘を開始した。以来二月月のべ一万人の人々が手に手に小さな竹べらを持って、この一大住民運動に参加した。

争は二度とひかえまいと月の輪の民衆は侵略を合理化する神がかりの歴史ではなく、真実の歴史を自らの手で握りおこそうと立上がった。とき、一九五三年八月十五日。

子どもたちは一日一日、竹の皮を剥くようにとんとん変っていくんですよ」と少年少女合唱団の指導をしている隣町の英田中学校の安東久男先生は言う。練習は週一回だが、はじめはちっとも声が出ない。でも一月が過ぎると声も出てきて積極的になってくる。背筋がシャンとしてくるそうです。

「きょうはお母さんといっしょにうたいました。この合唱団に誘ってくれたのもお母さんで、歌が大好きになりました。そしてこの歌をうたうなかで、町の歴史のこと、戦争のことなどたくさん知ることができました」と目を輝かせて語ってくれたのは棚原西小学校六年の眞止樹君。さらに安東先生は「この曲をせひ、もっとたくさん仲間と一緒にオーケストラ伴奏でうたいたいです」と夢いっぱいです。

合唱団の演奏はたいへん立派なものでした。そして子どもたちはこう呼びかけます。『ぼくらの羽はときをははたく、宇宙にうかぶ、生きていく星、地球家族のぼくら』

西江豊成共同デスク記者  
写真撮影・岡原進

1991年 第24回日本のうたごえ全国協議会総会  
日程 1991年2月9日(土)～11日(月・休)  
会場 富士箱根ランド  
(詳細続報)

☆うたごえ新聞  
共同デスク☆  
『日本のうたごえ祭典は以下のメンバーにより取材および撮影が行なわれました。』

秋藤俊夫(カメラマン)、  
池田隆浩(カメラマン)、石川道彦、内野敦(カメラマン)、岡原進(カメラマン)、砂賀佳宏、中尾孝、永安隆博(カメラマン)、西江豊成、林和恵、福島素子、誠和晋太郎、三田孝、三輪純永、武藤昌代

婦人のうたごえ七百人が白い上着の胸に赤い、いちごの形のちいさなバラをつけた。その花は生きていくような輝きをもっていて、なぜか強く心ひかれてきていた。

☆ ☆ ☆  
その花の作者は一人の高年齢な婦人で、六・九行動(8と9の日に平和署名)を欠かさない日々の中でつくり続けたのだ。しかし目標数に達する前に他界された。

☆ ☆ ☆  
そのあごを娘さんが縫いだといさんは語った。当日七百のバラは九千人の前で美しい花園となった。

☆ ☆ ☆  
また、今回要員について思うことがあった。ステージをまわった見物客もなしく人もいる。

☆ ☆ ☆  
もうずっと以前のこと、初めて祭典の創作事務局を受け持ったとき、要員にMさんもいよいよ先輩が教えてくれた。

☆ ☆ ☆  
その人をまわった知らぬまま、場外整備「M」と書いた。当日そっと任務につくMさんの横顔を見た。

☆ ☆ ☆  
後日Mさんと親しくなり、すばらしい創作の仕事をつづけてくれたことを知った。いっしょに仕事をしていた時この話をしたことがなかった。

☆ ☆ ☆  
そのMさんがこの秋、作曲三十年歌集を出版され先頃記念パーティーがひらかれた。素晴らしい出版おめでとう。

☆ ☆ ☆  
祭典で保母のうたごえを聴いてこんなことを思っていた。

